

省察的実践者としての保育者

三輪 建二

平成十九年に監訳者として、ドナルド・A. ショーンの『省察的実践とは何か』（鳳書房、二〇〇七年）の刊行を手伝いました。アメリカの組織心理学者ショーンの書物は、東京大学の佐藤学先生や秋田喜代美先生の手による部分訳（『専門家の知恵』ゆみる出版、二〇〇一年）が出ていますが、今回は全訳を行いました。ここではこの書物の中から、保育者にとってヒントになり得る文章を幾つか引用したいと思います。とはいうものの、ハウツー的な説明ではなく、あくまで保育者自身で自らの実践を省察していく際の手掛かりにとどまるものになることをお断りします。

一．技術的合理性の枠を超えろということ

保育者は絶えず、幼児一人ひとりとコミュニケーションを図っています。私は成人教育の場面で、成人学習者である専門職の方々と接することがありますが、専門職の



中で保育者は、医師、看護師、保健師、エンジニア、企業内教育担当者などと比べると、一定の理論や法則を保育実践にそのまま当てはめようとする考え方（技術的合理性の考え方）はあまり強くないようです。

保育という営みを、保育理論を当てはめるもの、因果関係で成り立つものと考えず、その都度ふさわしいやりとりを考え、幼児に働きかけ、ふり返っている保育者たち。一見するとそれは、保育理論や教育理論に裏打ちされない、いきあたりばったりの行為に見えがちです。保育のもつ技法や法則性を身に付けて実践したいという願望にかられる保育者も少なくないはずです。

しかしながらシヨーンは、このような、いわば「暗黙知」に基づいた保育実践・教育実践を行うことは素晴らしいことであると考えています。彼は、保育者や教師自身が技術や方法を適用する技術的熟達者から、実践をしながら「行為の中の省察」を繰り返す省察的実践者になる必要があると言うのです。

省察的実践者としての教師は、生徒たちに耳を傾けようと試みる。教師はたとえば、生徒の状況に直面して一連の問いを自分自身に投げかける。この場合この生徒はいつたいたいように考えているのだろうか。生徒の混乱はいつたい何を意味しているのだろうか。生徒がすでに知っているやり方はどのようなものなのだろうか。

……（中略）授業場面において、それぞれの生徒はそれぞれに異なった理解と行為の現象を表す。それぞれの生徒はひとつの世界を形作っている。その潜在力、直面

する問題、そして仕事のテンポは、教師の仕事のデザインに基づいた行為の中の省察によってとらえられなくてはならないものとなる（シヨーン、二〇〇七、三百四十九頁）。

二、カンファレンスなどにおいて実践を物語ること

保育の現場では、保育者の能力開発という観点から、公開保育や保育実践をめぐるカンファレンスが盛んに行われているようです。カンファレンスにおいて保育者が自らの保育実践について参観者に説明し、他者からアドバイスを受けることは、マニュアルを通して保育実践を学ぶことよりも身に付くことが多いのですが、実際にはあまり評判がよくないようです。先輩から後輩への厳しい指導や詰問の場になりかねないところがあるためです。

もし可能であれば、保育者が自らの保育実践をへ物語るカンファレンスを定期的に取り入れるのが望ましいといえるでしょう。というのは実践を物語ることを通して、自分自身の中に身に付けていた、今まで気づくことのなかった暗黙知に気づき、省察し、変容することができるようになるためです。

実践者が、「実践の中の研究者」として働くときは、実践それ自体が刷新の源泉となる。不確実性によって生じた誤りを認識することは、自己防衛の機会ではなく、むしろ発見の源泉となるのである（二百十六頁）。



そのためには聴き手も、ただ改善点を指摘するのではなく、語り手が暗黙知に気づき省察できるよう、物語の文脈に沿って聴く姿勢が大事になります。

三・実践と省察のサイクルを創るということ

省察的なカンファレンスを通して、保育者はそこで気づき、省察し、次の保育実践に活かすようになり、さらにはその保育実践を再び省察し、次に活かしていくというサイクルを創り出せるようになります。この実践と省察のサイクルを創り出すことは、〈実践者〉である保育者が同時に新しい意味での〈研究者〉になっていくことを意味しているとシヨーンは述べています。

〔省察的実践では……筆者注〕研究とは実践者の活動にはかならない。研究は実践状況のもろもろの特徴によって引き起こされ、ある時点で引き受けられ、ただちに行為とつながるものとなる……研究と実践との交換は直接的であり、「行為の中の省察」はそれ自身がまた手段となるのである（三百二十六頁）。

良き省察的実践者であり続けることを、私自身も肝に銘じて教育に携わっていきたいと思います。
（お茶の水女子大学）

引用文献

ドナルド・A. シヨーン著 柳沢昌一監訳 三輪建二監訳『省察的実践とは何か